

## 農村の儀式

菊池平野では昔から、農作業の節目に行われる儀式が大きな意味を持っていた。現在も行われている重要な伝統には、夏の「風鎮祭」と1～2月の「馬作り」がある。

風鎮祭は、台風が来る前の7月から8月上旬に行われる神事で、稲作を暴風から守ろうとするものである。風は病気をもたらすと信じられていたため、地域の健康と生活を守るという意味合いもある。参加者は、稲わらでミニチュアの笠（帽子）や蓑（コート）を作り、祭りに備える。祭りの当日、この笠と蓑を竹の棒に取り付け、田んぼの横に置いて、本物の帽子やコートが着用者を守るのと同じように作物を風から保護することを願って神主にお祓いしてもらうのである。

また、冬の風物詩である「馬作り」にも稲わらが使われる。子供がわらで小さな馬を作り、家畜の健康と安全を祈るのである。牛馬がなかったら大規模な米作りはできない。年長者が年少者に作り方を教え、わらの馬は翌年に取り替えるまで家に飾られる。集落によっては、子供たちが一軒一軒、お菓子や小銭と交換して回る風習もある。馬作りは正月明け、あるいは旧暦の「初午」にあわせて2月上旬に行われる。